

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、健全な社会の構成員として、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど、生きる力を育み、心身ともにたくましく活かに富み、感性豊かな人間の育成を目指す。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学校づくりのために、全職員協働で生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。 ②進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面では、より高い実績を目指す。 ③少人数学級編制のメリットを最大限に生かし、生徒個々に応じた指導を通して魅力ある学校づくりを推進する。 ④研究授業や授業参観を通して、指導方法の工夫改善を図り授業力の向上に努める。 ⑤保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。</p>
--	--



3 目標・評価

①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学校づくりのために、全職員協働で生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	基本的な生活習慣の確立	◇遅刻者の延べ人数を前年度より20%減少させる。 ◇特別指導の措置件数を減少させる。	○遅刻の増えそうな日には、事前に指導する。 ○特別指導が発生しないように、軽はずみな行動が自分自身や周りに大きな影響を与えることを、前もって認識させる。
		交通ルールの順守と交通事故の減少	◇乗車マナー指導を各学期に1回以上実施する。 ◇駐輪場の整理整頓・施錠を指導する。 ◇交通事故件数を20件以内にする。	○毎朝の登校指導を行う。 ○各学期に1回以上、通学路にも職員を配置して指導する。 ○学年ごとに駐輪場を指定し、定期的にチェックする。 ○昨年度の交通事故データを元に事故減少のための注意喚起を根気強く行う。
		部活動活性化の推進	◇新入生の入部率を80%以上にする。 ◇ボランティア活動を積極的におこなう。 ◇HPの部活度の欄を充実させる。	○部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで、入部を促す。 ○ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。 ○新しい情報を収集し、発信する。
		人権・同和教育の推進	◇すべての生徒が差別を許さず、差別をなくしていく民主社会の形成者となるように、その育成に努める。	○担当者が他校のホームルームを参観し、十分な職員研修を行い人権・同和教育のホームルーム活動等を実施する。 ○学校生活を落ち着いて送れるための雰囲気作りを確保するために、教師が見本となる言葉遣いや態度で生徒の指導にあたる。
教育活動	●健康・体づくり	清掃活動及び健康増進の充実	◇学習活動に適した環境づくりを推進する。	○清掃活動を充実し、校内美化に努める。 ○ごみの分別及び持ち帰りを徹底する。 ○美化情報等を適時に発信する。
		教育相談活動の充実	◇担任・教科担当や養護教諭ならびに家庭と連携して、困難を有する生徒の状況を積極的に把握し、早期の支援に取り組む。 ◇必要に応じて外部機関との連携を図る。	○欠席や欠課を確認し、学校生活に集中できない状況が見込まれる生徒に、カウンセラーとの面談などの支援を積極的に働きかける。 ○学校生活に困難を有する生徒の情報を、ケースごとに職員間で共有する。 ○校外の医療機関や専門機関と連携して、個々の生徒の状況に応じた支援を行う。
	●いじめの問題への対応	組織的な対応	◇いじめの未然防止に努める。 ◇いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化に努める。 ◇被害生徒の回復に向けて、組織的に支援する。	○ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通し、好ましい人間関係等、いじめ問題についての適切な指導を行う。 ○いじめの疑いの覚知やいじめの認知に至った場合は、速やかにいじめ・体罰等対策委員会等を招集して対応を協議、遂行する。 ○被害生徒の状況を継続的に確認する。

②進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面ではより高い実績を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路指導	進路意識の向上	◇3年間を見通して生徒が段階的・継続的に学ぶ姿勢を育む企画を立案・実行し、主体的な進路選択ができるようにする。	○進路指導計画のもとに、各種ガイダンスや講演会を行う。事前の指導を充実させ、目的意識を持った主体的な参加を促す。また、事後には学習用プラットフォーム(Classi)を活用した振り返りを行い、生徒自身が自己の変化・成長を認識できるようにする。 ○主体的・対話的で深い学びを体感し、学ぶことの楽しさを実感できる行事を企画する。 ○Classiを活用して個人面談を充実させ、適切な進路選択ができるように支援する。
		進路希望の実現	◇国立大学および難関私立大学の合格者20名以上を目指す。 ◇進路希望者それぞれの第一志望合格を目指す。 ◇就職希望者全員の希望職種への就職を実現する。	○全国模試を起点としたPDCAサイクルをまわし、チェックの機会として学力検討会を開催し、生徒の状況把握と授業の方針について常に情報を更新し、効果的な授業が展開できるようにする。 ○的確な入試情報の提供を行い、合格に必要な力を育成するための支援を行う。 ○面接練習やマナー講座を企画し、就労意識を高める。 ○会社訪問を積極的に行い、求人の開拓をする。

③少人数学級編制のメリットを最大限に生かし、生徒個々に応じた指導を通して魅力ある学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力の充実	◇日々の授業や補習等がきちんと実施できるよう授業時間や学校行事の精選等の工夫をし、授業時間を確保した上で、授業の充実や家庭での学習習慣の定着を図り、意欲的に学習に取り組ませる。	○講演会等を通して、学ぶことの大切さを理解させる。また、授業見学や授業研究を行い、授業を充実させる。さらに、小テストや宿題等を計画的に与え、家庭学習の定着を図る。 ○補習や土曜講座等への参加を促し、計画的に実施することで、学力の定着を図る。
		個に応じた指導の充実	◇少人数学級編制の利点を生かし、細かな授業展開や学力層に応じた指導を計画的かつ継続的に実施する。	○授業の展開や課題・小テスト等を工夫して、生徒個々の到達目標を明確にする。 ○定期考査や各種模擬試験等を活用して、到達度をはかる。また、事後指導や面談などを利用して、フォローアップを行う。

④研究授業や授業参観を通して、指導方法の工夫改善を図り授業力の向上に努める。

学校運営	○教職員の資質向上	職員研修の充実	◇毎週実施の教科会議における教材研究会や教科研修会に加え、公開授業や研究授業、授業参観、ICT利活用教育研修会、教育センター研修等を通して、絶えず自らの授業改善に努める。	○校内外における研修の機会を積極的に活用できるよう、情報提供と環境づくりに努める。 ○各教科において、授業の際に気軽に参観できるような雰囲気づくりに努め、更なる授業力の向上を図る。
		教科指導力の向上	◇進路指導部主催の研修会や教科研修会、県教委主催の教科研究会等とおして、職員一人一人が教科指導力を高めるために、自己研鑽に努める。また、職員相互の情報共有を図る。	○教科会議等を通して各教科内における情報の共有化を図る。 ○大学入試問題の傾向や特徴、変更点等について絶えず情報を更新するとともに、授業や進路指導へのフィードバックを図る。また、高大連携による入試改革に対する情報収集を行い、最新の情報を提供する。

⑤保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知及び達成に向けての推進	◇生徒・保護者対象のアンケートにおいて、前年度に比較して10%以上認知率が高まるよう取り組む。	○「学校だより」の紙面、その他さまざまな機会を通して、本年度の重点目標についての広報を行い、生徒・保護者への周知・浸透を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	地域社会との連携	◇地元自治会等と連携・連絡を密にし、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努める。また日頃より学校の活動を理解してもらうためにも情報発信を心がける。積極的に生徒の地域へのボランティア体験を推奨することで生徒の地域や佐賀県全体への誇りを育成する。	○さがを誇りに思う教育についての学習によりさがや地域の一員としての自覚を養う。 ○主要な行事ごとに部活動単位で協力を募り、地域社会との連携を深める。 ○ボランティアへの参加は部活動単位だけでなく、各分掌や各学年と連携してより多くの生徒を参加させる。また参加した生徒や部活動を学校だより「飛翔」や学校ホームページで紹介し、その活動意義の周知を図る。
		地域・保護者への情報発信の推進	◇学校だより「飛翔」を年5回発行する。また学校ホームページの更新に努め、内容を充実させる。	○学校だより「飛翔」は全校生徒はもとより学校評議員、地元住民に配布する。また佐賀市周辺の中学校へも配布し掲示を依頼する。 ○SEI-Netの活用を通してホームページ更新に努める。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	食育の推進	◇保健指導や家庭科・保健体育等の授業を通して、健康についての自己管理能力を高める	○朝食摂取率90%を目指しつつ、家庭科や保健体育の授業、LHR活動等を通してより良い食生活を送れるように促す ○生活習慣アンケートの結果を踏まえて、「保健だより」等を活用して情報発信を行う。 ○食育に関する講演会を実施し、生徒の食に関する意識を高める。
学校経営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間外労働時間の縮減	◇月別時間外労働時間100h超者の延べ人数を、前年比10%以上減らす。 ◇定時退勤日を各学期に1日以上設ける。	○部活動の週1日の休養日と、土日の休養日を各月1日以上設定することを、各部顧問に要請する。 ○行事予定表に掲載するなど、早めに周知を図り、無理なく定時退勤できるよう計画的に実施する。
教育活動	○図書館教育	読書活動の推進	◇学校図書館の計画的な運用と機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。 ◇「明治維新150年」にちなみ、「さがを誇りに思う」精神をさらに深めるための方法を、学校図書館の観点から考え、企画・実践する。	○図書館報の配信を行い、学校図書や書籍についての関心を深めてもらい、貸し出し冊数や利用人数の増加を図る。 ○生徒個人のみならず、各部活動や生徒会などに呼び掛け、図書選定リクエストを実施する。 ○集団読書指導を年間2回実施する。 ○「肥前佐賀」や「幕末維新」にまつわる書籍をさらに導入し、生徒・職員の郷土に対する関心を深める。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目